

3月初旬、私は世界の最貧国バングラデシュの中でも、さらに貧困地域とされているポリシャル管区に工場適地調査を兼ねて、足を運んでみた。

人件費は70～75%ほどで、工員の定着率はよい。土地は安い。物流事情は悪くはない。反面、意外に年間の昇給率が高い。縫製経験者は皆無。電力供給が不安定、ガス供給がないため、エネルギーコストが高くつく。

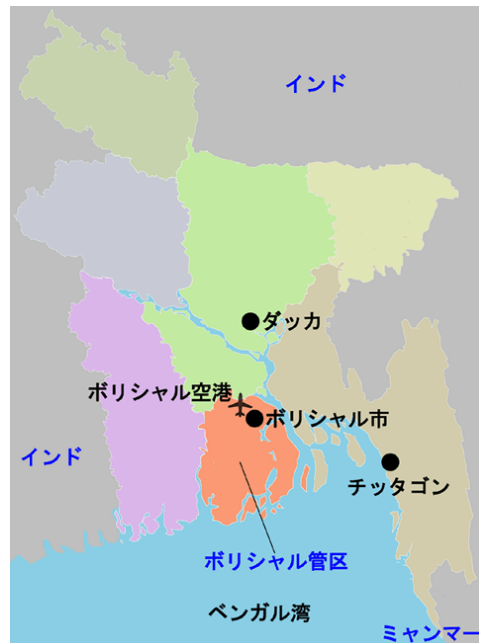
結論：ポリシャル管区に工場進出しても、大きな利益が見込めるということはない。

1. ポリシャル管区の位置および交通機関など

・ポリシャル管区は、ダッカ市から 150 キロ南に位置している。

ポリシャル管区はボッダ(別名:ガンジス・パドマ川)とジョムナ川(別名:プラマプトラ川)の2大河川が合流してベンガル湾に流れ込む河口に位置している。ポリシャル管区は、大河の恵みを受けた肥沃な大地での農業と、川や海に面しておりその幸を利用した漁業が盛んな土地である。反面、大河の洪水や、サイクロン被害の多い地域でもある。

- ・この地には、かつてヒンズー教徒も多く住んでいたが、イギリスからの独立以後はヒンズー教徒がインドに去り、その後にイスラム教徒が移住してきている。またその昔、バングラデシュを代表する港町であったため、キリスト教徒や仏教徒も多く、その墓所や遺跡も多い。
- ・ダッカ市から車で6～8時間。往復2車線の舗装道路ができており、交通の便は悪くない。しかし現在はガンジス川の下流であるパドマ川をフェリーで渡らなければならず、混雑時には2時間ほどかかる。ここに計画中のパドマ・ブリッジがかけられれば、4～5時間圏内に入ってくる。
- ・ダッカ市内のショトル・ガットからフェリーが運航されており、ダッカ～ポリシャル市まで8時間で行くことができる。この船には約2000人が乗ることができ、深夜運航なので便利であり、庶民の足として利用されている。なお、650タカほどで清潔なベッドのあるVIPルームも利用でき、ポリシャル市行きは、車よりも便利である。ポリシャル市の船着き場は、ポリシャル市の中心地から5分程度の場所にある。
- ・近くにモングラ港もあるが、海外貿易はチッタゴン港が利用されている。チッタゴン港までは車で10時間。



2. ポリシャル管区の人口・面積・人口密度

	人口(万人)	面積(k m ²)	人口密度(k m ²)
ポリシャル管区	833	13,225	629
ポリシャル県	232	2,785	835
ポリシャル市	53	324	1,625
参考：ダッカ県	1,204	1,464	8,229

3. ポリシャル市の様子

- ・貧困地域と言われているわりには、街並みは綺麗であり物乞いもない。一見して、貧困地域の印象は受けない。
- ・ダッカ市内ほど人があふれているという印象はないが、日夜を問わず活気にあふれた街である。
- ・車は少なく、交通渋滞はまったくなし。
- ・庶民の足は、人力車と3輪バイク。ダッカ市のような大型バスは走っていない。
- ・大きな橋が何か所もあり、道路の舗装状況も良く、道路インフラは整備されている。
- ・ダッカ市内と同様に、この街も建設ラッシュであり、ことに10階くらいまでのマンション建設が目立つ。
- ・マンションの賃貸料は意外に高く、ダッカ市内と比べても安くはない。
- ・携帯電話、ネットも問題なくつながる。

4. ボリシャル工業団地(BSCIC)の概要と様子

- ・ボリシャル市内から車で10分ほどの場所に、ボリシャル工業団地(BSCIC)がある。
- ・1961年設立の国営工業団地。現在50社が団地内で稼働中。いずれも国内零細企業が多く、外資系企業はなし。
- ・工業団地管理事務所棟は1971年に建設で、老朽化が激しく、刑務所を連想させるような建物。
- ・工業団地内の企業のワーカーの平均月給は、3～4000タカ。
- ・工業団地内およびその周辺に、ワーカーの人影は少なく、人手が過剰であるという印象はない。
- ・電力供給状況は、他所と同様。停電は頻発。発電機は必需設備。現在入居中の零細企業は数社が共同で購入使用。
- ・天然ガス、CNGの供給はなく、LPガス使用。
- ・土地代は安く、1エーカー(約4000㎡)=600,000タカ(1㎡=150タカ)。ただしボリシャル管区全体が、沖積地帯なので、土地を工場建設のために埋め立てる砂利・岩石などがなく、整地にかかなりの資金が必要であるため、整地済みの土地は、1㎡=1300タカとなる。それでもダッカ近郊の1/10から1/5。
- ・工業団地内の土地は完売に近いという話だったが、空き地は多く、倒産後銀行管理になっている土地・建物もあった。
- ・工業団地に税制メリットありとの説明であったが、具体的なことは不明。

5. 視察工場報告

①ベンガルビスケット(BSCIC内)

設立	1980年
所在地	ボリシャル工業団地内
取り扱い製品	ビスケット、お菓子
市場	バングラデシュ国内、一部輸出
工場規模	工員約1000人
平均給与	4500タカ 年間給与アップ率 10～20%
離職率	ほとんど離職なし
電力キャパ	750KVA 発電機 450KVA(ディーゼル油使用)
ガス供給	天然ガス、CNGともになし LPガス使用

- ・24時間・3交替勤務。工員は永年勤続者が多い。
- ・工員は真面目に、一生懸命働いている。5Sも徹底しており、食品工場のため、制服・制帽着用。
- ・離職はほとんどなく、人員採用も問題なし。給与などの問題で揉めることもない。
- ・主要な機械は、日本製であった。



②モハマディ電気 (ボリシャル市内)

設立	1974年
所在地	ボリシャル市内
取り扱い製品	LED電球、電気ソケット、電気コードなど
市場	バングラ国内市場向け
工場規模	工員約1500人 建物面積750㎡×5フロアー
平均給与	4000タカ(額面) 年間給与アップ 10～25%
離職率	ほとんど離職しない
発電機・LPガス使用	

- ・旧市街の住宅地の真ん中にあり、道路が狭く、トラックの出入りも不便な場所。2年前までBSCICで工場を稼働させていたが、いろいろな制約があるため、現在地に移動。工員は周辺から集まってくるが、募集に殺到するような状況ではない。
 - ・バングラデシュの節電国策に添って、LED電球などを生産している。資材の一部を中国から輸入し、組み立てている。
 - ・工場は古い建物を利用したもので、製造工程などはまったく合理化されておらず、整理整頓もまったくなされておらず、雑然とした工場。人海戦術で組み立てている。
 - ・バングラデシュには、この会社のライバルがなく、この製品分野では独占的な地位を占めており、大きな利益を上げているという。今後は、ソーラーパネルなどの生産を手がけるといふ。
 - ・それでも工員は制服・制帽を着用していた。1人分200タカ。
- ※わが社でも、この会社の製品を使用しているが、耐久性がなく、すぐに壊れるので困っている。



③A 綿糸工場 ポリシャル市郊外

所在地	ポリシャル市街地から車で10分
取り扱い製品	綿糸
市場	輸出向け(インド・ケニア・南アフリカ)
工場規模	工員約2300人
給与	3000～7500タカ

- ・BSCIC 内にも工場があるが、人の集まりが悪いので、郊外に工場を設立。
現在、95%の工員が近隣住民で潤沢。
- ・BSCIS 内は、治安が悪く、規制が多く、賄賂が横行しているため、BSCIC 外の方が操業しやすい。
- ・電力事情が悪く、生産に大きな支障が出ている。大型工場のため、発電機では電力を賄いきれないので、発電機は使用していない。電気代が高騰しており、毎月1千万タカを支払っているため、経営にも響いている。



6. 工場立地調査 結論

- ・貧困地域といわれるポリシャル市近辺では、人件費はダッカ市近辺の70～80%ほどであり、そんなに安くはない。ワーカーも溢れかえっているという状況ではない。したがってポリシャル管区で工場を稼働させることは、運送コストなどを考慮すると、得策とはいえない。ポリシャル県の田舎に行けば、人件費がダッカ市近郊の半分以下と言われているので、そのメリットは享受できるが、電力不足という致命的欠陥がある。また意外に、昇給率が高く、数年先にはダッカ近辺と給与差がなくなるのではないかとと思われる。
- ・ポリシャル県には縫製工場皆無であり、縫製経験者は全くいない。ポリシャル管区出身者でダッカ近辺に出稼ぎに出ている縫製経験者を意識的に集め、故郷の工場に勤務させるという方法ならば可能性はある。
- ・工員の定着率はよく、周囲に縫製工場がないことを考えると、技術レベルをアップするのに適しており、この点は大きなメリットである。
- ・電力供給が不安定であり、ガス供給もないので、発電機は必需品であり、それをディーゼル油で回すとなると、かなりのコストアップ要因となる。ボイラーも同様である。
- ・チッタゴン港からは10～12時間であり、物流経費はダッカ近郊と大きく変わらない。
- ・土地は安い。建築費用はダッカ市近郊と大きく変わらない。

7. ポリシャル空港の現状

ポリシャル市から車で30分ほどの場所に、ポリシャル空港がある。2年前まで使用されていたが、利用客が少なく採算が悪化したため、現在、定期便はない。ときおりチャーター便やヘリコプターの利用がある程度。ダッカ～ポリシャル間は、プロペラ飛行機で約30分。この空港は6000mの滑走路を備えており、半年以内に再開する予定であるという。



以上